

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

公表の趣旨

今後10年間の本市教育が目指すべき方向性とその施策を総合的かつ計画的に推進するための指針として、令和3年3月に「長岡京市第2期教育振興基本計画」を策定しました。今年度は計画3年目にあたります。本市公立学校の児童生徒の学力・学習状況について、保護者・市民の皆様にお伝えするとともに、更なる学力の向上に向けて、学校教育へのご支援、ご協力をお願いするものです。

調査の概要

1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日 令和5年4月18日(火)

3 対象となる児童・生徒 小学校第6学年・中学校第3学年

※ 義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校の該当学年を含む。

4 調査事項及び手法

(1)児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語[中学校のみ]）

イ 質問紙調査

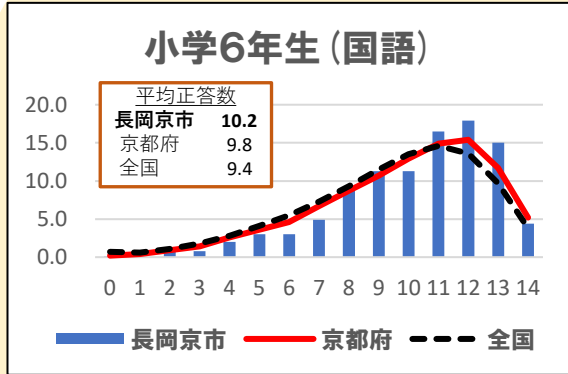
※英語の教科調査は、4年ぶり2度目の実施。

(2)学校に対する質問紙調査

学力の状況

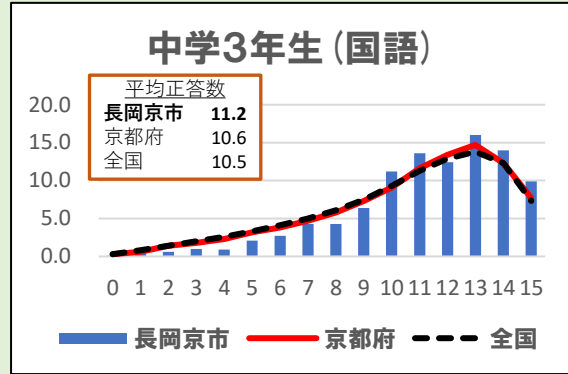
本市の小中学生の学力は高いレベルにあります

正答数分布グラフ 【小学校】国語:14問 算数:16問 【中学校】国語:15問 数学:15問 英語:17問【軸】横軸:正答数 縦軸:割合(%)



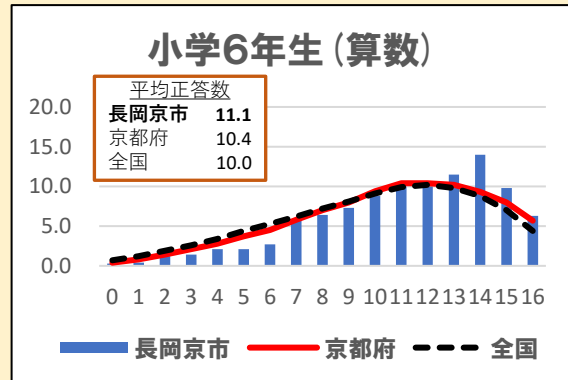
◆平均正答数の推移(小学6年生・国語、過去3回)

	H31	R3	R4
長岡京市	9.7	10.0	9.9
京都府	9.3	9.5	9.5
全国	8.9	9.1	9.2
問題数	14問	14問	14問



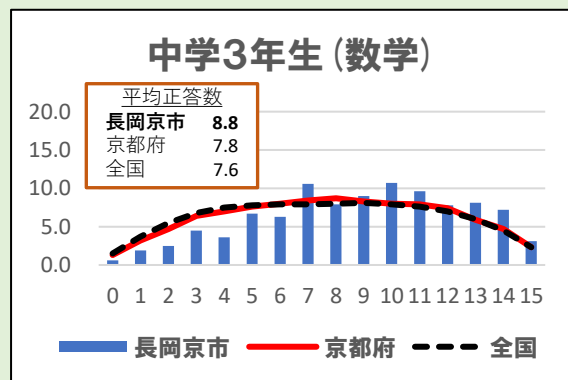
◆平均正答数の推移(中学3年生・国語、過去3回)

	H31	R3	R4
長岡京市	7.5	9.3	10.4
京都府	7.3	9.1	9.7
全国	7.3	9.0	9.7
問題数	10問	14問	14問



◆平均正答数の推移(小学6年生・算数、過去3回)

	H31	R3	R4
長岡京市	10.2	12.3	11.1
京都府	9.5	11.6	10.4
全国	9.3	11.2	10.1
問題数	14問	16問	16問



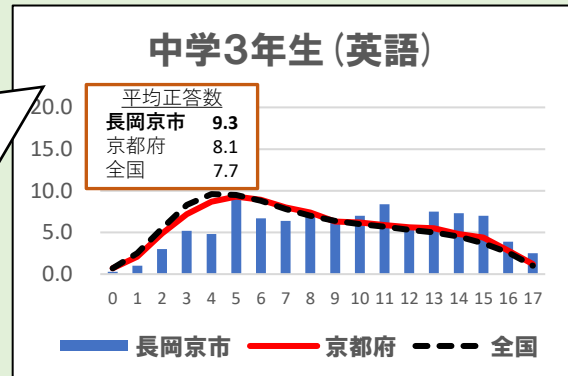
◆平均正答数の推移(中学3年生・数学、過去3回)

	H31	R3	R4
長岡京市	10.7	10.3	8.2
京都府	9.7	9.2	7.2
全国	9.6	9.1	7.2
問題数	16問	16問	14問

中学3年生の英語の調査結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計しています。

「話すこと」調査については、1人1台端末を用いたオンライン方式により実施しましたが、実施日が異なるため右記の集計結果には含まれていません。

なお、「話すこと」調査においても、本市の結果は、全国と比較して高い平均正答数となっていました。



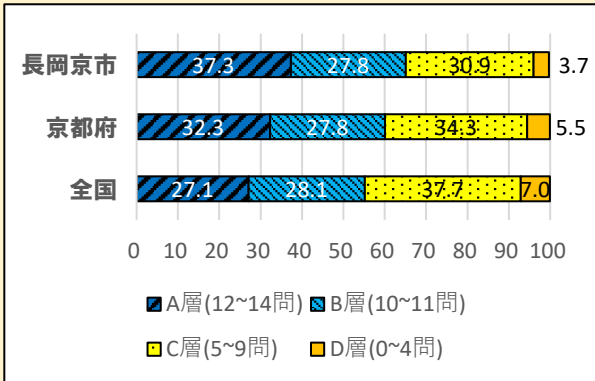
◆平均正答数の推移(中学3年生・英語、過去1回)

	H31
長岡京市	12.8
京都府	11.8
全国	11.8
問題数	21問

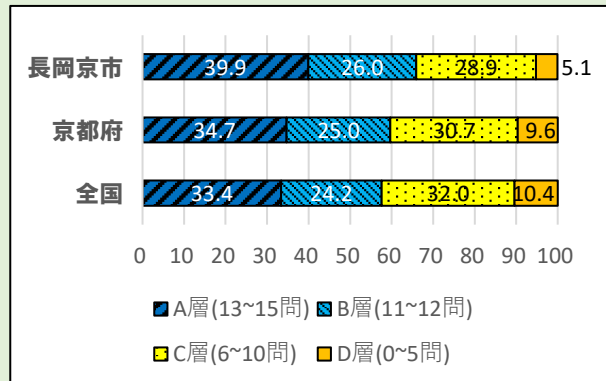
A～D層の分布状況【単位：%】

全国の平均正答数以上の児童生徒をA層(上位)、B層(中上位)、平均正答数未満の児童生徒をC層(中下位)、D層(下位)にそれぞれ2分割しています。

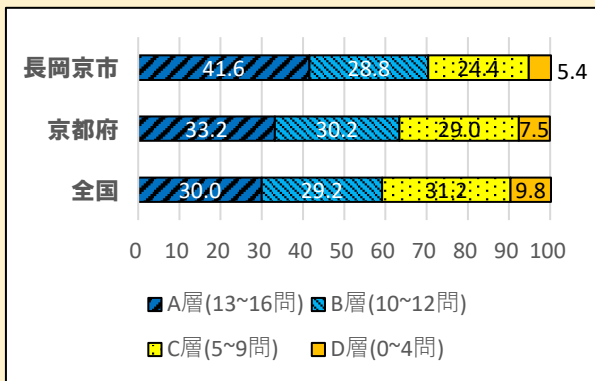
小学6年生・国語



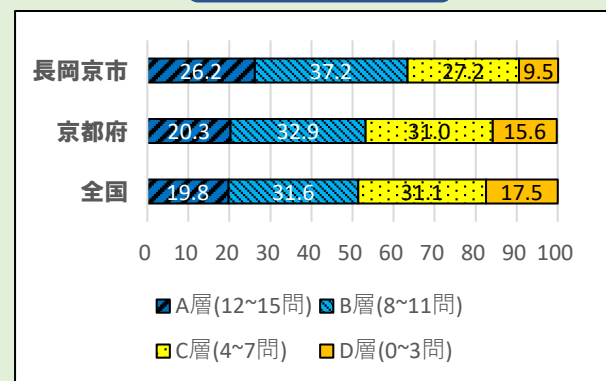
中学3年生・国語



小学6年生・算数



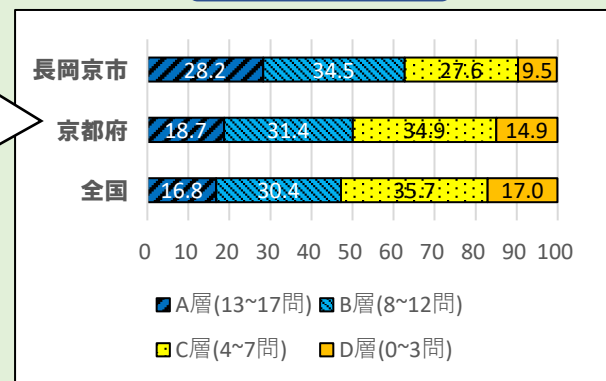
中学3年生・数学



英語の調査でも、A・B層の割合が多く、C・D層の割合が少なくなっています。

本市では、小学校低学年の段階から、外国語活動指導員（AET）による英語活動を実施し、6年生に英語専科教員を配置する等、外国語教育に力を入れて取り組んでいます。

中学3年生・英語



前ページの正答数分布グラフを見ると、小学校、中学校ともに、全国や京都府と比較して、正答数の多い児童生徒の割合が多くなっています。

過去の調査結果も同様の傾向を示しており、本市の小中学生の学力は全国や京都府と比較して高いレベルにあるといえます。これは、ご家庭や地域の教育力、学校・家庭・地域の連携、学校教職員の努力、そして、何よりも子どもたちの頑張りによるものと考えています。

また、A～D層の分布状況を見ると、小学校、中学校ともに、全国や京都府と比較して、D層の割合がかなり少なくなっています。本市では、「D層を前年度より減少させる」ことを指標に掲げ、教科指導の充実と指導方法の改善に取り組んできましたが、今までの取組の成果が出ているものと考えています。

子どもたちの更なる学力の向上を目指して、授業改善に取り組んでいきます。

質問紙調査の結果から

新学習指導要領では、新しい時代を生きる子どもたちに必要な力を「資質・能力の3つの柱」として整理しています。

- A 実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
- B 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力など」
- C 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」

幼児期に非認知能力(意欲、忍耐力、社会性、協調性、創造性、思いやり、自尊心、自制心など)を高める教育を受けた子どもの方が、将来社会的に活躍する可能性が高いというジェームズ・ヘックマン(米国経済学者、2000年ノーベル経済学賞受賞)の検証をきっかけに研究が進み、非認知能力が世界的に注目されるようになりました。

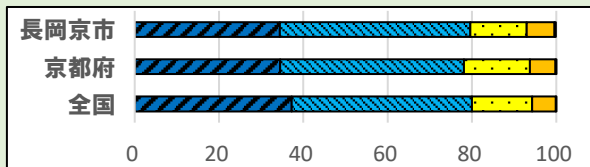
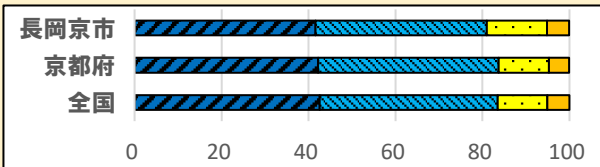
質問紙調査の結果は、質問項目によって多少の違いはあるものの、府や全国と同じような傾向を示しています。

小学6年生

中学3年生

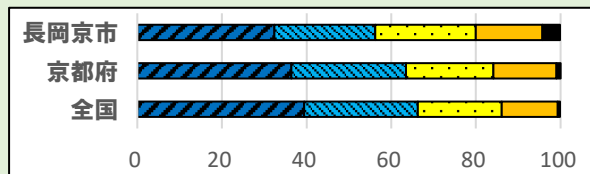
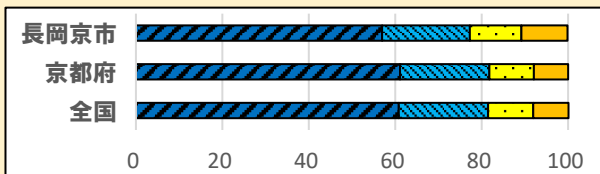
当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない
 無回答

自分には、よいところがあると思いますか

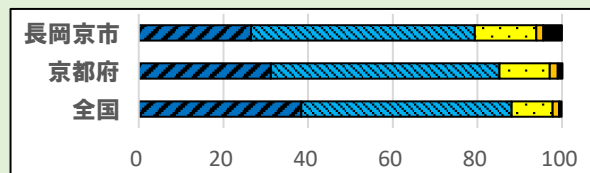
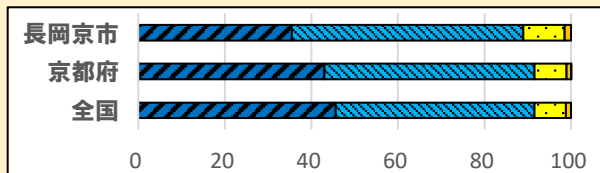


横軸:%

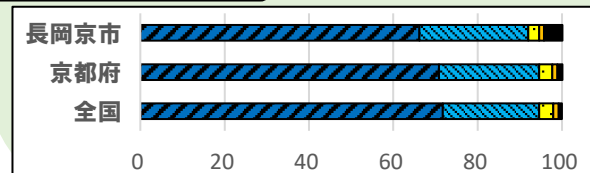
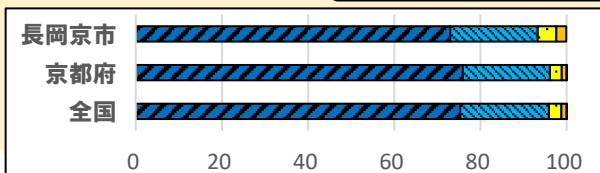
将来の夢や目標を持っていますか



人が困っているときは、進んで助けていますか



人の役に立つ人間になりたいと思いますか



本市では、新学習指導要領に基づく主体的・対話的で深い学びを促進するとともに、G I G A スクール構想の実現に向け、下記を目標にタブレット端末の活用を進めています。

ステップ1 (令和3年度) 「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」活かせる1人1台端末

ステップ2 (令和4年度) 教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。

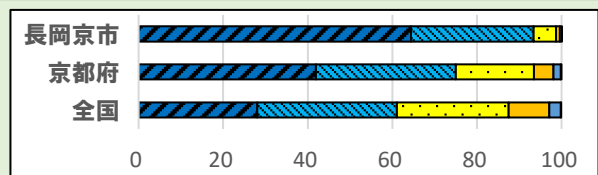
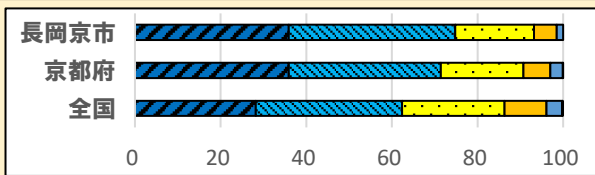
ステップ3 (令和5年度) 教科の学びをつなぐ。社会課題等の解決や1人1人の夢の実現に活かす。

質問紙調査の結果から、小学校、中学校ともに、全国や京都府と比較して、ICT機器の活用が積極的に進められていることが分かります。

小学6年生

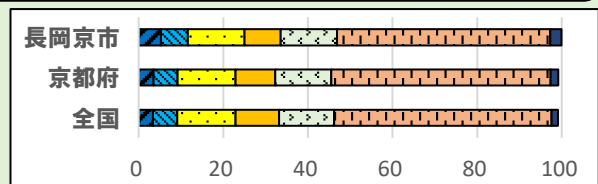
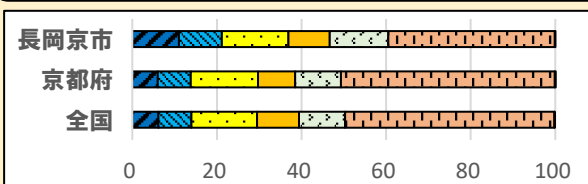
中学3年生

5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



■ ほぼ毎日
 ■ 週3回以上
 ■ 週1回以上
 ■ 月1回以上
 ■ 月1回未満
 ■ 無回答

家庭学習の課題(宿題)として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を読み取り、英語を話す練習をしたりしていますか

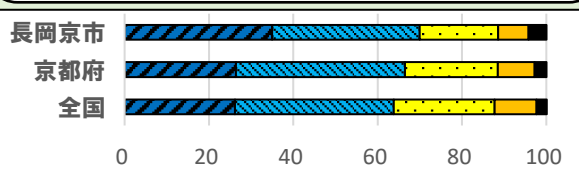


■ ほぼ毎日
 ■ 週3回以上
 ■ 週1回程度
 ■ 月1回程度
 ■ 月1回未満
 ■ 行っていない
 ■ 無回答

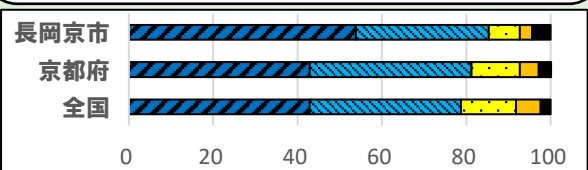
本市の中学3年生の英語の学力は、前出の結果のとおり、高いレベルにあります。また、質問紙調査においても、下記のとおり、肯定的な回答の割合が多い項目があります。

本市の中学校では、外国人の英語指導助手を2名配置することで、生徒がネイティブの英語に触れられるようにし、英語科の教員と共に英語でのやりとりを大切に授業づくりに努めています。

1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか



1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか



■ 当てはまる
 ■ どちらかといえば、当てはまる
 ■ どちらかといえば、当てはまらない
 ■ 当てはまらない
 ■ 無回答